

## MISSION 2

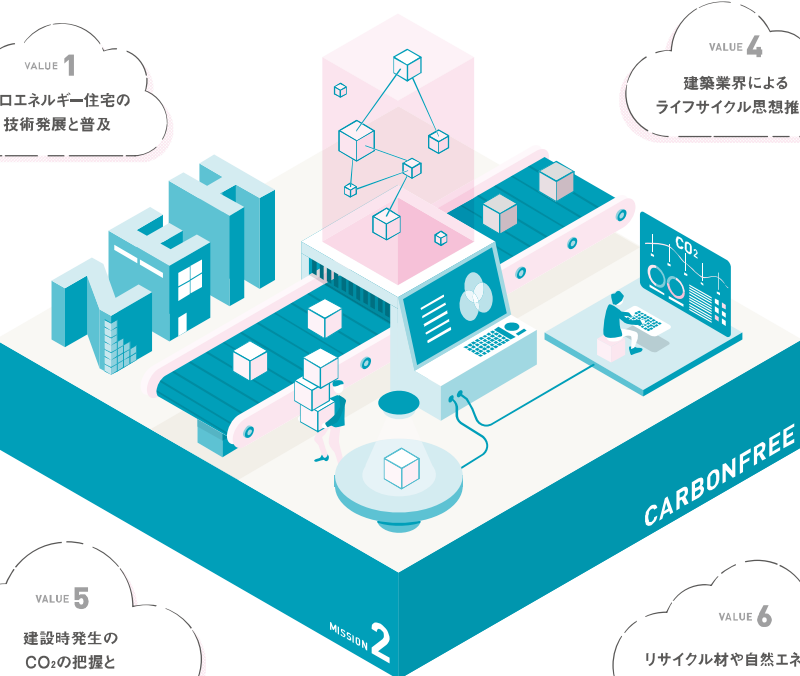
# 脱炭素

VALUE 2  
環境性能に関する適切な把握と表示

VALUE 3  
適切な素材選択や施工ノウハウの伝承

VALUE 1  
ゼロエネルギー住宅の技術発展と普及

VALUE 4  
建築業界によるライフサイクル思想推進



VALUE 5  
建設時発生のCO<sub>2</sub>の把握とその抑制策の検討

VALUE 6  
リサイクル材や自然エネルギーを活用した建築素材の提供

自社グループの提供価値と関連するSDGsゴール



## 取り組み

### いち早く脱炭素(省エネ・省CO<sub>2</sub>)への取組を推進

安成工務店では、地球温暖化が本格的に全世界の社会問題化する前からOMソーラー(1988年)やセルロースファイバー断熱材の吹込み工法に取り組む(1997年)など住まいの環境における省エネや省CO<sub>2</sub>の取組を進めてきました。

また、グループ会社「株式会社デコス」を設立し、断熱材の製造販売を行うことで、家庭のエネルギー効率に重要な断熱性能を自社製品で確保することで国や業界が進めるZEH(ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス/再エネと省エネを通じて一次消費エネルギーを実質的にゼロにする)やHEAT20等の標準対応も積極的に行っています。



## 関連する社会課題と主な利害関係者 /

### 目指すところ

施主様 設計者 施工者 建材メーカー 研究機関

#### ライフサイクルでの排出低減



住宅における環境性能を評価する上で重視されており、推進が必要

→ P.50

#### 温室効果ガス排出削減



家庭部門での温室効果ガス排出量削減と2030年までの国の削減目標達成

→ P.41

#### 省エネルギーの推進



エネルギーコストの減少と化石燃料使用量の抑制に向けた省エネルギー推進

→ P.41

#### 再エネ導入の推進



エネルギーコストと化石燃料使用量の抑制に向けた再エネによる自家消費の推進

→ P.43

#### リサイクル材の活用



建材のライフサイクルでの環境負荷低減を考慮する上で推進が必要

→ P.45

#### 環境負荷把握、表示



エネルギー収支や環境性能表示などを責任を以って定量的に伝えることで消費者の選択肢を広げる

→ P.49

#### 断熱性能確保のための適切な資材選択と施工



適切な資材選択と施工水準の確保を以って結露等を抑制する長寿命住宅の実現

→ P.48

## YASUNARIグループの省エネ住宅

Company



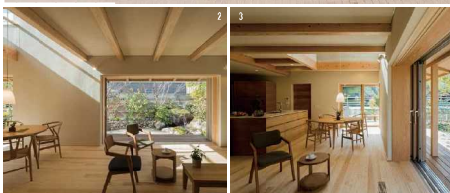
SDGs



STAKEHOLDER

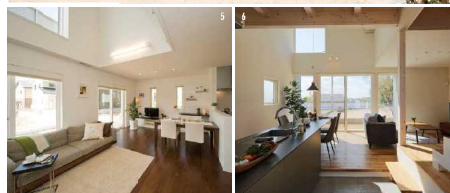
施主  
取引先(建材/資材調達・  
販売先/施工業者等)

## PASSIVE HOUSE



1 安成工務店の家の外観  
2 実が美しいリビング内観  
3 明るいLDK内観

## ACTIVE HOUSE



4 エコビルドの家の外観  
5 モダンなインテリアのLDK  
6 C値が低いので吹き抜けでも暖かい

## パッシブとアクティブ、2種類のエコハウス

YASUNARIグループでは、パッシブ・アクティブの2つの思想の元、エコハウスに取り組んでいます。パッシブエコハウスは、設計の工夫で冬は太陽の日差しを採り入れ、夏は木立や遮蔽スクリーンなどで日射を遮る工夫をします。また、間取りも風が爽やかに抜ける窓配置を取り入れる事により、比較的夏に涼しく過ごすことを可能にするなど、設計の工夫により環境負荷を下げる試みを行う住宅を言います。雨水を貯めて洗車や庭木の散水など上水以外に利用することも推奨しています。また、それらは多少の暑さや寒さを許容しながら自然と共に暮らそう

と考える方に支持されているとも言えます。

一方、アクティブエコハウスはどちらかと言えば石油や天然ガスなどの化石エネルギーや電気も活用しながら空調や給湯を行う人為的なエコハウスです。いずれも太陽光発電を搭載することにより住宅で使用するエネルギーを賄うことで年間の一次エネルギー収支をゼロにするZEH(ゼッチ:ゼロエネルギーハウス)が求められています。そのためには、外部建具を含めた外壁や屋根の断熱性能を大幅に向上させることが不可欠となります。YASUNARIグループでは関連会社デコスのデコスドライ工法でそれを実現しています。居住後のアンケートによると、暖かさ、静かさ、梅雨時期の爽やかさに高評価を頂いています。

## SYSTEM

## ECO

PASSIVE HOUSE  
パッシブハウス

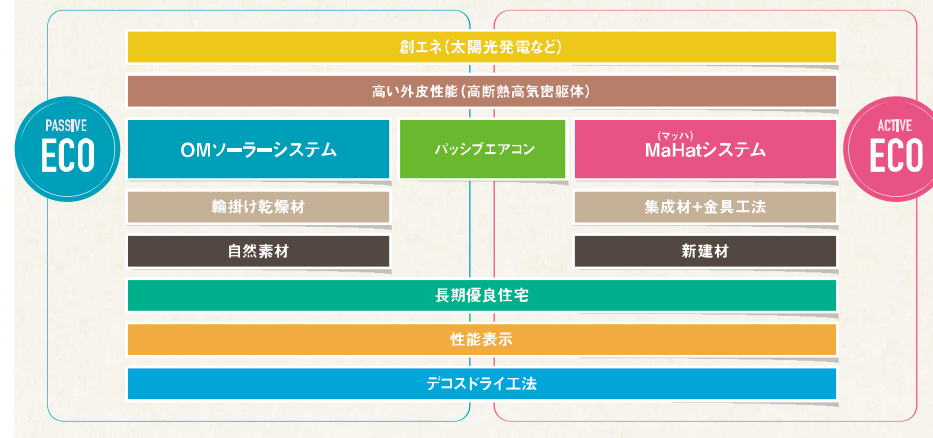
## 「安成工務店」のゼロエネ住宅

安成工務店では1986年から設計の工夫で太陽熱や風や日射など自然エネルギーを活かした環境共生住宅に取り組んでいます。使用材料も自然素材でトレーサビリティが明確で地域循環思想に基づき高性能な「現代民家」とも言うべき家づくりを行っています。

ACTIVE HOUSE  
アクティブハウス

## 「エコビルド・オークス建設・銘建」のゼロエネ住宅

銘建、エコビルド、オークス建設では、モダンな外観や内装を持つ、自然素材にこだわらず新建材も多用する高性能住宅を作っています。エアコン1台で全館冷暖房を可能とし、快適な温熱環境を有するデザイナーズハウスとも言えるべき家づくりが目標です。



## デコスドライ工法

新聞紙をリサイクルして製造するセルロースファイバー断熱材、デコスファイバーを使った充填性、静断性、調湿性に優れた断熱工法。

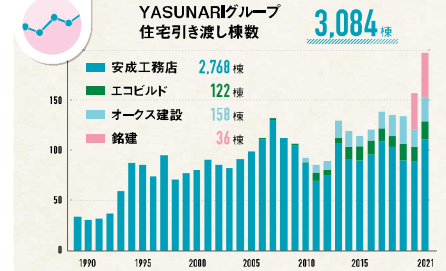
## OMソーラーシステム

太陽の熱を空気断熱給湯・暖房エネルギーを賄うパッシブシステム。

## MaHATシステム

空調室の1台のエアコンで調整した空気をダクトで全室に送風する全館冷暖房システム。

## PERFORMANCE



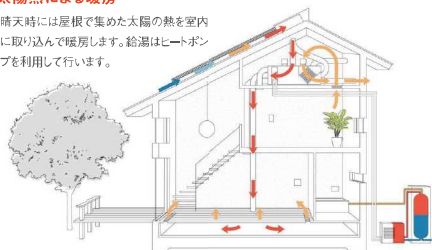


## ATTEMPT 09

## OM/OMX

## 太陽熱による暖房

晴天時には屋根で集めた太陽の熱を室内に取り込んで暖房します。給湯はヒートポンプを利用して行います。

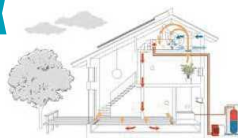


CASE 1

CASE 2

## ヒートポンプを利用した暖房

夜間や雨の日など太陽熱が利用できないときに、ヒートポンプで作った熱を利用して暖房します。暖房時には熱交換を行いながら新鮮な外気を取り込みます。



CASE 3

## ヒートポンプ冷房と排熱利用給湯

夏はヒートポンプを利用して冷房を行いながら、室外機から発生する熱を利用して給湯を行います。室内の空気が熱交換したうえで屋根から排気します。



CASE 4

## 熱交換換気のみ

室内が快適に保たれているとき、あるいは夜間、徐々に室温を低下させるときはこの運転をします。



## 太陽熱と光を住まいのエネルギーに・・・

OMソーラーは建築地の気候風土を設計に活かし、太陽や風など自然の恵みを暮らしに取り入れるバッシブ思想の元に開発された技術です。このOMソーラーは太陽の熱で「換気」「給湯」「床暖房」を行う「OM」と、これに太陽光発電を組み合わせて、更にヒートポンプを利用した給湯機と冷房装置を加えた「OMX」との2つのタイプが用意されています。安成工務店では平成元年加盟、1棟目を平成2年に完成させ、以

| Company | SDGs                                                       | STAKEHOLDER                  |
|---------|------------------------------------------------------------|------------------------------|
|         | <br>12. 責任ある消費と生産<br>13. 気候変動<br>15. 陸の豊かさ<br>17. パートナリシップ | 施主<br>取引先(建材/資材調達・販売先/施工業者等) |



YOUTUBE

東京大学 前真之 准教授の声

OMXで生活と地球の未来をちょっと明るく

OMXは、太陽の恵みをフル活用して、暖房・冷房・換気・給湯、およそ生活に関わる熱と空気の全てをまかなえる、世界でも唯一の存在。太陽熱暖房のパイオニアであるOMソーラーのDNAを受け継ぎつつ、ヒートポンプなどの高効率設備と温度リズムの高度な制御を備えた、最先端のシステムです。

太陽光発電を屋根に載せたゼロエネルギー住宅、通称ZEHでも、冬の暖房までは自給できません。石炭火力や原発の電気を買ってくるのでは、電気代もかさみCO<sub>2</sub>も減りません。OMXは、太陽光発電とともに集めた太陽熱で冬の暖房を賄えるので、暖かく電気代の心配がない、真のエネルギー自立を実現できます。

今建てる家には2100年にも、誰かが住んでいます。OMXは、そんな先を見据えて、みんなの生活と地球の未来を明るくする。そんなちょっと面白いシステムです。



東京大学大学院工学系  
研究科建築学専攻  
前 真之 准教授

来32年に渡り推奨システムとして提供し続けています。その数、1,336棟。OMソーラーシステムのオピニオンリーダーと言っても過言ではありません。夏はやはり冷房は必要ですが、比較的暑くなく我慢できるのをお聞きます。その理由の一つが調湿・除湿機能を持つデコスドライ工法によるもので、実測データでも他の家と比較すると10%程度湿度が低い事が分かっています。高性能な躯体性能を持つ木の家で太陽光発電、太陽熱を利用してエネルギー「O」の暮らしを実現します。

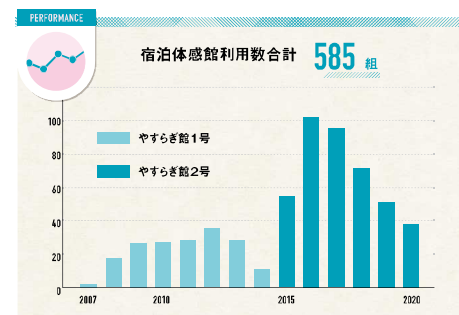
## ATTEMPT 10

## 体感施設「やすらぎ館」とゲストハウス「風陽館」

| Company | SDGs                                                       | STAKEHOLDER |
|---------|------------------------------------------------------------|-------------|
|         | <br>12. 責任ある消費と生産<br>13. 気候変動<br>15. 陸の豊かさ<br>17. パートナリシップ | 施主<br>従業員   |



1/湯布院ゲストハウス「風陽館」LDKから九重連山を一望することができます。2/宿泊体感施設「やすらぎ館」外観。3/内観、リビングダイニング、OMX、ベレットストーブ、オリジナルアイランドキッチンを使い勝手を確認してください。



## 体感施設「やすらぎ館」とゲストハウス「風陽館」

環境共生住宅や国産材の木の家、そして設計の工夫が活きるバッシブシステムの家は、見学するだけではその良さがわからないことが多いものです。そこで、1泊でも良いので、体感宿泊をお勧めしています。ただ睡眠をとるだけでなく、キッチンで料理をし、居間で寛ぎ、お風呂につかり、そして良質なベッドで深い眠りに落ち、朝、爽やかに目覚める。それだけで、安成工務店がお勧めする「快適」「健康」「安全」な住まいを感じて

頂くことが出来る。

泊まって良かった。多くのお客さまから聞きたい言葉である。それらを実感して頂くために、体感宿泊ハウス「やすらぎ館」を山口県下関に、ゲストハウス「風陽館」を大分県由布市に用意をしています。週末は多くのご予約を頂いているので、お早めにご相談下さい。使い勝手だけでなく、季節を変えて冬の暖かさや梅雨時の爽やかさを確認される方もいらっしゃると思います。是非、体感宿泊をして自然素材の木の家の快適性を確認して下さい。

## デコスファイバーとデコスドライ工法

| Company | SDGs | STAKEHOLDER                             |
|---------|------|-----------------------------------------|
|         |      | 施主 / 同業他社<br>取引先(建材/資材調達・<br>販売先・施工業者等) |

新聞紙をリサイクルしたセルロースファイバー断熱材「デコスファイバー」と断熱欠損を生じない乾式吹込み工法「デコスドライ工法」は、「長期断熱性能+高い付加価値」。

木の家には、木質繊維系セルロースファイバー断熱材採用が自然の理。さらに安心と心地よさ、そして高い満足度、それが“デコス”です。

DECOS DRY



## 8つの特長



MERIT 1

## 長期断熱性

材料は経年変化要因が見当たらず、JCA認定施工店による確実な施工で長期にわたる断熱性能を保持します。



MERIT 2

## 安心・安全性

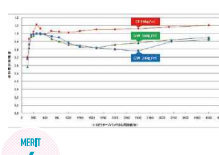
JIS規格に基づき高い品質基準で生産され、性能値を満たし、維持・管理する技術を有することがJISマークで確認できます。



MERIT 3

## 調湿性

木質繊維による水分容量の大きな透湿外被であり、優れた湿度調節効果が確認されています。



MERIT 4

## 吸音性

隙間の無い施工、繊維形状、高い充填密度によって高い吸音・遮音性能を有しています。



MERIT 5

## 防カビ・防虫性

ホルム酸を添加し、JIS規定の防カビ性能をクリア。高い防カビ・防虫性を持っています。



MERIT 6

## 建物の高耐久性

結露を防ぎ構造を乾いた状態に保ち、シロアリの被害も受けにくく、腐朽リスクも低減。



MERIT 7

省エネ・省CO<sub>2</sub>性

新聞紙のリサイクルで製造時のエネルギーが極めて少なく、断熱性能によるランニングコストとの両面で優れています。



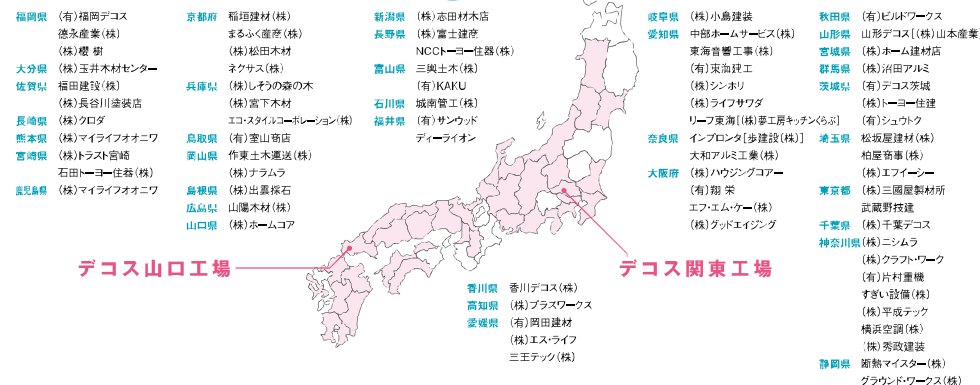
MERIT 8

## 健康性

ダニ・カビの原因となる結露を防ぎ、部屋間の温度差が少なく、冬のヒートショック対策にもなります。

広がる、JCA認定施工店  
デコスドライ工法ネットワーク

加盟  
全71社  
(R3.7.1現在)



デコス山口工場

デコス関東工場

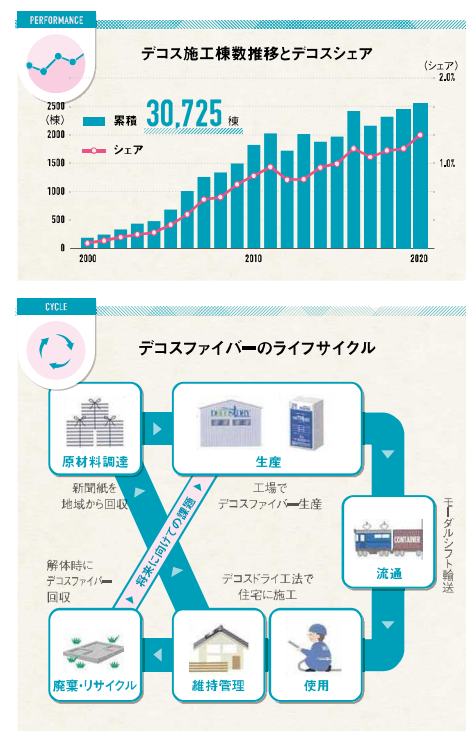
## デコスドライ工法の誕生経緯

新聞紙を解繊し、難燃剤と撥水材を添加した繊維状の断熱材をデコスファイバー断熱材といいます。歴史は古く、アメリカで1950年代に新聞紙のリサイクル商品として開発され、日本では1941年に東京銀行の建物に初めて使用されました。

日本の断熱材の必要性は1973年のオイルショック後、高騰する石油価格を懸念し、初めて1979年に住宅省エネルギー基準が制定されました。それと同時に、通産省の指導により様々な断熱材の製造を各メーカーが始めることとなりました。

日本では製紙会社の王子製紙・十条製紙の関連会社の2社が国内製造をはじめました。安成工務店では、当時、住宅金融公庫の住宅仕様に基づいた施工(グラスウール50mmを壁、天井に施工)をしていましたが、1989年の環境共済住宅「OMソーラーハウス」の取組により、限られた太陽熱を有効に活かすために断熱の必要性を痛感したことから、セルロースファイバー断熱材の採用を決定し、社内に施工班を設け、自社責任施工を始めました。乾式工法の必要性から、自社で新省エネ基準の工法認定の取得をし、認定工法として自社施工の実績を積み重ねてきました。

完全施工性・音の静けさ・調湿による室内空気の心地よさなどの特徴が優れているため、広く工務店に告知し、利用してもらうため、(株)デコスにて全国へ施工販売網を構築することとしました。現在、山口県下関市・埼玉県飯能市の2つの工場で製造し、全国71社の施工代理店が責任施工を行っており、戸建て注文住宅の1.3%のシェアを占めるに至りました。





## 除湿躯体システム



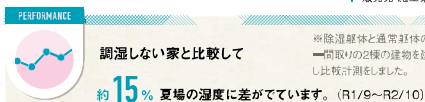
## デコスドライ工法の調湿機能が更に進化

デコスドライ工法が調湿機能を持つことは、九州大学との共同研究により明らかになっています。それを更に活かすために、室内空気を屋根面で除湿し、それを室内に取り込み循環させる仕組みを考案しました。これによりデコスドライ工法で壁・屋根を断熱した躯体そのもので夏場10%程度、屋根通気及び全熱交換換気システムと組み合わせたPDSCシステムでは15%以上湿度を低下させる事が出来ます。現在、PDSCシステムは製品化実験に入っており、2021年7月末より2022年12月まで実測モデル棟で最終計測を行うこととしました。

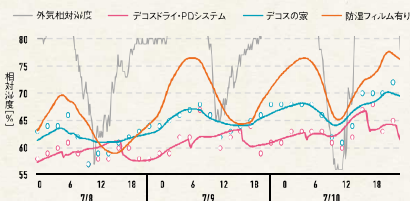
現在、気候変動により夏場の温度は徐々に上昇しています。空調機器は更に省エネルギー運転を求められ、除湿の機能に大きな負荷がかかる傾向にあります。躯体そのものが夏場15%湿度を低下させることはとても画期的な出来事と言えます。

地球温暖化の解決方法として脱炭素の流れは更に大きくなります。鉱物由来、石油由来の断熱材が多くのシェアを占める中、新聞紙のリサイクルで木質繊維を持つセルロースファイバー断熱材はその製造時のCO<sub>2</sub>が極端に少ない事で注目を浴びつつある中、更に、除湿性能を有することは社会課題の解決に大きな役割を果たすと言えます。

| Company | SDGs | STAKEHOLDER                  |
|---------|------|------------------------------|
|         |      | 施主<br>取引先(建材/資材調達・販売先・施工業者等) |



## [ 除湿躯体と一般躯体の比較実験 ]



## デコスドライ工法を使った除湿躯体の考え方

CASE 1

機械装置を使わずにデコスドライ工法のみで行う場合

壁・屋根面に外部断材を施工しデコスドライ工法を吹込み施工します。これだけで約10%近い湿度低減が計測されており、夏涼しく冬暖かい温熱環境を形成することが出来ます。

CASE 2

室内の除湿された空気を屋根面で循環することにより除湿効果を最大化を図る

ケース1に加え、室内の空気を屋根材の下部通気層を通過させ再度室内に取り込むことで除湿の循環サイクルを作り出します。これにより、15%以上の湿度低減が可能となります。

## VOICE



九州大学尾崎明仁教授の声  
PDSCシステムに期待します

安成工務店、デコスとの5年に渡る実験の結果、デコスドライ工法の調湿性能と物性を確認することが出来ました。さらに、除湿性もあることから、その除湿性能を最大化する除湿躯体システム(PDSCシステム)を考案し共同で特許申請をしました。

これから商品化をし、社会に広めることで、地球温暖化が進む環境下で、住宅の躯体そのものに除湿させるという画期的な仕組みは酷暑地域での家づくりに大きな変化をもたらします。是非、広く一般的な工法となる仕組みづくりを検討してください。



九州大学  
大学院工学研究院  
尾崎 明仁 教授

## JCA(日本セルロースファイバー断熱施工協会)の取組み



仮設のバネに吹込み施工を行い、速さ・正確性(充填性、密度)を誇りブローイングピックのようす。



## JCA 日本セルロースファイバー断熱施工協会とは

多くの断熱材メーカーが製品販売のみで施工は住宅会社任せの仕組みを取っています。これは断熱材の重要性が認識され始めた今、大きな問題を含んでいます。何よりも断熱は施工が全てです。そんな中、メーカーが責任施工を行っているのはウレタンの発泡とデコスドライ工法のブローイングの2者となっています。デコスではその施工精度を担保するためにJCA(日本セルロースファイバー断熱施工協会)を設立し活動を行っています。

JCA日本セルロースファイバー断熱施工協会では、日本を代表する研究者の方々と顧問を迎え、施工システムの構築に助言を頂いています。

## JCA顧問

坂本 雄三 (東京大学名誉教授)  
伊香賀 俊治 (慶応大学教授)  
前 真之 (東京大学准教授)

## JCAテクニカルアドバイザー

古川 繁宏 (住まい環境プランニング代表)



## SEMINAR



## [ブローイングピックの開催]

毎年2月に開催する施工技術を競い合う競技会。「断熱は施工が命」を合言葉に、施工代理店の施工者が集い、施工の精度・速さ・密度・美しさなどを競い合う事が、完全施工が定着する仕組みのひとつになっています。

## [定例勉強会]

正しい断熱施工には、断熱・気密・結露・通気層・防湿層・調湿・蓄熱容量・防音など、知らなければならぬ知識が数多くあります。年に複数回の定例勉強会で知識習得を行っています。

## [施工研修、施工現場ハトール]

施工技術者を育てるための施工研修や施工代理店の施工現場の確認のためにハトールを行っています。

## [JCAオープンセミナー]

全国の工務店を対象に「住まいと健康を考える」「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース」「木材を見せながら火事につけない木造をつくる」「くまもの力、再び。熊本水害仮設住宅報告」など、顧問の先生や業界トップリーダーの方々によるセミナーを行っています。

## ATTEMPT 14

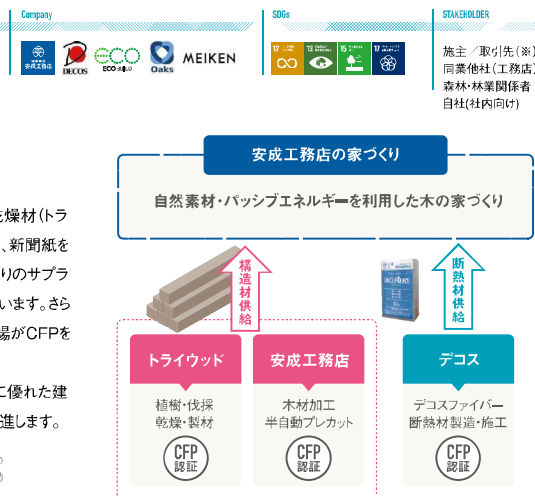
環境情報を把握した  
建材の積極活用

使用建材のカーボン量の計測を心がけています。

安成工務店の家づくりに欠かせない、天然乾燥材「輪掛け乾燥材(トライウッド)」とその加工をする「半自動プレカット(安成工務店)」、新聞紙をリサイクルした断熱材(デコス)の3社が、日本で初めて、家づくりのサプライチェーンとしてCFP(カーボンフットプリント)の認定を取得しています。さらに安成工務店とデコスの工場は同じ敷地内にあり、各々の工場がCFPをもつことで、他の家づくりに無い省CO<sub>2</sub>性能を実現しました。

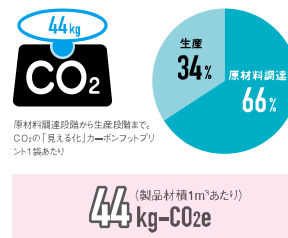
安成工務店では、脱炭素社会の構築に向け、省CO<sub>2</sub>性能に優れた建材を使用することで、さらに、環境にも人にも優しい家づくりを推進します。

※CFP(カーボンフットプリント)Carbon Footprint of Productsの略称で、商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO<sub>2</sub>に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組み。



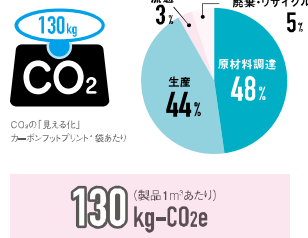
輪掛け乾燥材

風通しの良い山土場に丸太のまま井桁を組み、1年間じっくり天然乾燥させる木材。熱やエネルギーを多く使う人口乾燥材とは違い、本来の木が持つ調湿機能や色、香りを損なわない美しい構造材です。



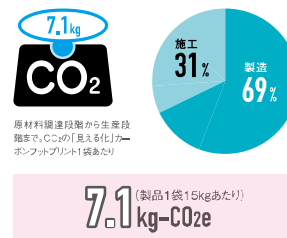
天然乾燥化粧構造材

全自動でなく、人の手が多く介在する半自動プレカット。トライウッドから納入された木材を、「木くぱり」できる職人が一本一本異なる木の特徴を見極め、柱や梁などの適材適所の化粧構造材を生み出します。



デコスファイバー

断熱材デコスファイバーは他の断熱材と違い、火や水を使わず電気のみで生産。JR貨物によるモーダルシフトやゼロ・エミッションを達成した工場などにより、非常にCFP値の低い建築用断熱材となりました。



## ATTEMPT 15

安成の標準住宅の  
イニシャルCO<sub>2</sub>計算

まず、安成工務店の木の家のイニシャルCO<sub>2</sub>を知る

慶應義塾大学理工学部の伊香賀俊治教授の指導のもと、安成工務店の一般的な規模と仕様の木造住宅を建築する際に排出するCO<sub>2</sub>を生産段階・流通段階から追って算出しました。これを外国産木材とグラスウールを用いて木造住宅を建てた場合と比較すると、1棟につき約4.5トンのCO<sub>2</sub>を抑制できていることがわかります(図1)。安成工務店では例年120棟前後の木造戸建住宅を建てているため、年間で540トンのCO<sub>2</sub>排出を抑制が期待されます。これは1年間に40年生のスキの森約61ヘクタール(東京ドーム13個分)が吸収する量に相当します。

CASBEEによるライフサイクルCO<sub>2</sub>の評価

戸建住宅の設計内容に基づいて総合的な環境性能を評価するツール「CASBEE-戸建(新築)2021SDGs対応版」では、安成工務店の木造住宅にOMX(太陽光発電あり)を導入した場合、ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量を表すランクは☆4となることがわかります(図2-2-2)。これは、住宅の建設、居住、修繕、解体の全過程におけるCO<sub>2</sub>排出量について、一般的な住宅と比較してより積極的な取り組みができてい

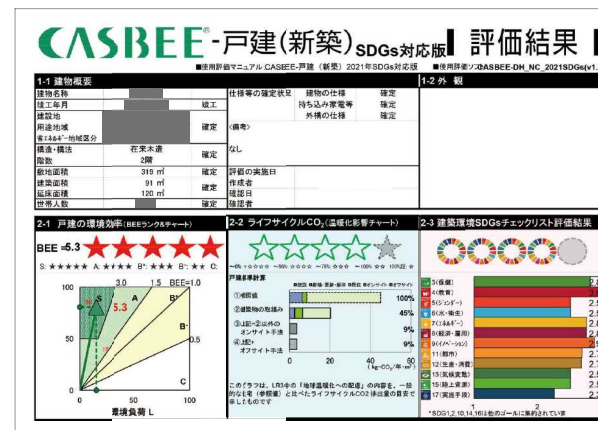
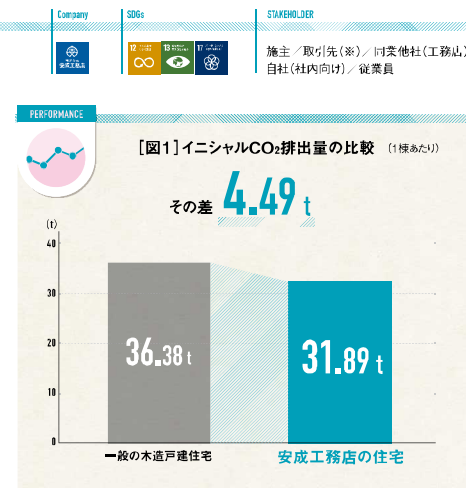


図2 CASBEE-戸建(新築)2021SDGs対応版 評価結果

注)こちらは当社自己評価の結果です。認証を受けた結果ではありません。

## 比較条件

どちらの物件も安成工務店の戸建木造住宅において、平均的な規模である延床面積120.18㎡とし、建物プラン、外皮性能は同等とする。下記に示す個別条件以外の建築材料(外装材、耐力面材、窓サッシ、住宅設備、他)は同じ仕様とする。

## 安成工務店の標準的な住宅

|        |          |
|--------|----------|
| 構造材    | 国産天然乾燥木材 |
| 断熱材    | デコスファイバー |
| 内装仕上   | 珪藻土塗り    |
| 内部造作木部 | 無垢材      |

## 一般の木造戸建住宅

|        |                         |
|--------|-------------------------|
| 構造材    | 外国産人工乾燥木材(8割・バイオマス材による) |
| 断熱材    | グラスウール24K               |
| 内装仕上   | ビニールクロス                 |
| 内部造作木部 | 合板                      |





## 安成の家のインシタルCO<sub>2</sub>を計算する LCCM住宅への挑戦

Y: さて、今年(2021年)の4月から7月にかけて、伊香賀研究室で開発したLCCM住宅評価ツールを用いて、安成工務店の標準住宅の建築時に排出されるCO<sub>2</sub>、いわゆるインシタルCO<sub>2</sub>を計算したわけですが、今回その結果が出ました。そこで、この数値や取り組みの意義について先生とお話をしたくさせて頂きました、この場を設けていただきました。

I: はい、まず、LCCM評価ツール開発の経緯からお話しますと、スタートは1991年。ほぼ30年前です。そのときは日本建築学会の中に委員会ができて、建築物について、インシタルのCO<sub>2</sub>だけでなく、ライフサイクル全体のCO<sub>2</sub>を算定する手法を確立しようということになりました。その後、8年位前、国土交通省が、いわゆる「LCCM住宅」、つまり、ライフサイクル(建築から廃棄まで)を通してCO<sub>2</sub>がゼロになる住宅を推進しようということになり、このツールにさらに細かな仕様変更を行い、リリースしました。

Y: そのお話を聞いたとき、私たちは自然素材型住宅を作っていて、断熱材も新聞紙をリサイクルしたデコスファイバー、木材も近県産の天然乾燥木材を使っていたので、このツールで計算すれば、とても有利な数値が出るのではないかと期待感を持っていて、是非計算をしていたきたいと実は思っていました。それからしばらく時間が空いてしまいましたが、今年(2021年)の4月に改めて思い立ち、メールを差し上げた次第です。

I: メールでご依頼をいただいたとき、私は、やり方を教えるので、是非安成工務店の社内で計算していただきたいと回答いたしました。今後、中長期的に自社の住宅を評価するにあたり、やり方が分かっているチームが社内にあることは重要なポイントになると考えたからです。

Y: 大変有難いお申し出でした。それから、私たちは社内に、若手社員によるインシタルCO<sub>2</sub>計算チームを作り、伊香賀先生とテレ

ビ会議を使った5回の勉強会を経て、今日の結果報告に繋げることができました。私たちのチームメンバーが先生にとって良い生徒だったのか分かりませんが(笑)、先生には大変丁寧にご指導いただき、本当にありがたいと思っています。ありがとうございます。

I: このLCCM住宅ツールは、もともと自社で計算をしていただけということを念頭において開発したものではありませんが、なかなか複雑な部分があって、チームの皆さんも試行錯誤されたことと思います。自社で計算する取り組みは、大きな建設会社やメーカーでは何例もあったかと思いますが、地域工務店としてしっかり社員がからやったというのは全国で初めてだと思いますよ。

Y: さて、結果をレビューしたいのですが、弊社の住宅の平均的な広さである120.18㎡で、天然乾燥木材やセルロースファイバー断熱材など弊社の標準的な仕様で計算

左「インシタルCO<sub>2</sub>」計算チーム左から  
田嶋、清水、長谷山、右 伊香賀先生を囲んで、YASUNARIグループ  
LCCM検討スタッフ。



したところ、㎡当たり265kg-CO<sub>2</sub>という数字になりました。これを1棟あたりに直しますと、31.89t-CO<sub>2</sub>になります。これを同一プランで、木材を高温乾燥材、断熱材をグラスウールなど、よくある工業化住宅の仕様にした時は、36.38t-CO<sub>2</sub>になりました。その差は約12.3%程度となりました。

I: 1棟あたり31.89t-CO<sub>2</sub>という数字と、一般住宅と比較して12%程度の優位性であったという結論をどう評価するのですが、そのうち、安成工務店さんが一般的な住宅と特に差別化できている部分、「木材起因のCO<sub>2</sub>」、「断熱材のCO<sub>2</sub>」だけを抽出して比較してみると、一般的な住宅に比較して50%以下にまで削減できていることがわかります。「木材起因のCO<sub>2</sub>」、「断熱材のCO<sub>2</sub>」は全体のCO<sub>2</sub>排出量の約1割程度ではありますが、天然乾燥木材を使う、セルロースファイバーの断熱材を使う、そういった工夫というのがインシタルCO<sub>2</sub>の削減に確実に寄与しているということをより明確化させることができますね。

Y: ありがとうございます。おかげさまで、LCCM住宅の計算で一番重要な、安成工務店の呼吸する木の家のインシタルのCO<sub>2</sub>を確認することができました。今後、これに対してどのような設備や仕様をより製造時のCO<sub>2</sub>が低いものに変更していけば、更に、新築時CO<sub>2</sub>発生が低い住宅が実現できるかの検討をすることが出来るようになりました。

それでは次に、もう一つの評価結果の話をさせてください。今回、こちらも伊香賀先生が監修された、戸建て住宅の設計内容に基づいて総合的な環境性能を評価するツール「CASBEE・戸建(新築)2021年SDGs対応版」を使って、弊社の家の評価してみました。その結果、環境効率は星5つですが、ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量ランク、建築環境SDGsチェックリスト評価ランクともに、星4つ(最大5つ)という結果になりました。

I: そうですね、まずはライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量ランクの星4つ。詳しい数値を見ると、一般の戸建て住宅と比較して、安成工務店の家はCO<sub>2</sub>を45%に抑え込んでいる。さらにもうひとつ頑張りすれば、完全なLCCM住宅になりうる結果だと思っています。では何を工夫すればそこまでいけるか考えてみますと、ひとつは太陽光の設置面積をもう少し増やすとか、基礎コンクリートのセメントをリサイクルセメントに変えてみるとか、その他の建材でもうひとつ工夫すると、星5つ、最高ランクを11指すことができそうです。

Y: SDGsチェックリスト評価の星4つはどうでしょう。

I: こちらもあと一歩というところですが、今後注力していただきたいのは、外構工事の部分です。外構工事で生物多様性に配慮した庭とか、その他の工夫を盛り込めば、こちらも10分最高ランクを狙えます。

Y: なるほど、素晴らしいアドバイスをありがとうございます。最高ランクを目指して早速検討を始めます。

I: 今回のインシタルCO<sub>2</sub>算出では、安成工務店の社員のそれぞれ専門分野の人が自ら手を動かすことで、どこにCO<sub>2</sub>削減余地があるかということに気が付いたことかと思っています。今後も毎年社内で計算ができれば、中長期的視点でCO<sub>2</sub>削減につなげることができるでしょう。この3ヶ月、計算チームのメンバーの皆さんは、日常業務以外にこれをプラスアルファでやられたという意味では大変だったと思いますが、これが次の企業の成長に繋がってくれたら私としては嬉しいと思います。

Y: ありがとうございます。この結果を活かして、お客様にとって、地球環境にとっていい建物を作って参ります。これからも先生には折に触れてご報告しますので、是非私どもの努力を今後も応援をしながら見守ってください。本当にありがとうございます。



伊香賀修治/イカガとはる、慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科 主任教授/建築と都市を対象とした持続可能性工学を研究。内閣府、国土交通省、文部科学省、経済産業省、環境省、厚生労働省などの建築・都市関連政策に関する委員を務める。



# MISSION 3

## ひと

### VALUE 1

社員大工の育成、  
技術の伝承体制構築

### VALUE 2

オーナーと安成工務店をつなぐ  
共有サイト開設による  
暮らし方の共有

### VALUE 3

同業他社や  
協力業者様とも  
連携したノウハウ共有

### VALUE 4

健康増進に  
関する取組

### VALUE 5

ダイバーシティ推進や女性の活躍、  
働きやすい職場環境の形成

自社グループの提供価値と関連するSDGsゴール

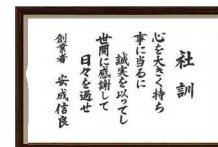


## 取り組み

### 理念の実現は「ひと」の力が源泉

YASUNARIグループが掲げる理念や社会課題の解消と事業活動の推進は「ひと」あってこそ成り立つものです。安成工務店の社訓は、「ひと」としてどうあるべきか?を先代安成信良が問いかけたもので、これが私たちの事業の在り方の理念になっています。

その「ひと」の成長には施主様や協力業者様・同業他社様の声も重要です。私たちは様々な方からのお声を頂きながら「ひと」としての価値を高め、理念の実現に進進します。



関連する社会課題と主な利害関係者 /

### 目指すところ

施主様 従業員 協力業者様 同業他社様

#### 大工の確保育成



技術力を持った大工が住環境の向上には必須であり育成に取組む

→ P.64

#### 技術の伝承や継承



大工だけでなく、設計・営業も含め経験や技術の伝承が継続的発展に必要

→ P.67

#### ダイバーシティの推進



人材不足が深刻化する中で多様な人材と共にミッションを共有することが重要になっている

→ P.60

#### 従業員教育・育成・定着



施主様・協力業者・同業他社の声を聴きながら多様な課題に応えられる人材としての成長や教育の必要性

→ P.67

#### 健康増進



心身の健康を増進することによる永く働ける環境形成

→ P.57

#### 働きやすい職場環境形成



永く働ける職場環境を形成することで多様な課題やニーズに応えられる人材の育成

→ P.62

#### 女性の活躍



国際的に低い評価であり、当業界でも課題である女性の活躍フィールドの拡大や環境形成

→ P.63



## ATTEMPT 16

## アフターサービス体制

| Company                                                                           | SDGs                                                                              | STAKEHOLDER                |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
|  |  | 施主／地域住民<br>自社（社内向け）<br>従業員 |



## 顧客満足度調査

約10年に1度のペースで顧客満足度調査を実施しています。これは、引き渡したすべてのお客様が対象で、すでに数十年経過した方から見ると、いささか感があるかもしれませんが、引き渡した後の弊社の対応も含めた調査となっています。前回は2006年3月に実施し、今回は70周年を機に4月に実施しました。今回2,750名に送付し、1,083名（回収率39.4%）の回答を頂きました。

## アフターサービス体制

現在、新築後3か月、6か月、1年、1年半、2年の5回、アフターサービス担当者が巡回訪問し、建具の調整を始めとする微調整を行っています。担当者は、大工、左官、建具などをこなす多能工スキルを持っているため、その場で対処することで満足度をさらに高めています。

## 全戸お客様訪問

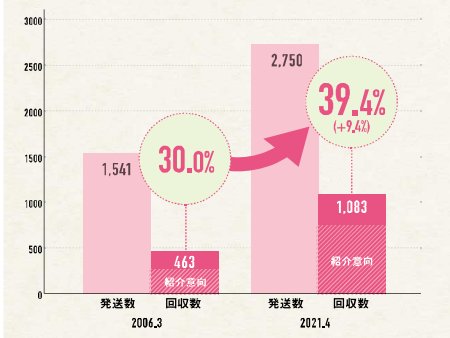
15年前は2年を経過した方々への訪問機会は設けておらず、お電話を頂いてから訪問するスタイルをとっていました。もっと身近な立場でお客様に寄り添うことを目的に、15年前から毎年春、秋2回の全戸全社員訪問を始めました。2日間のお客様訪問日には、住宅の社員だけでなく全社員が2人1組のチームを組み、手分けして全戸訪問を行います。回るお客様宅は少しずつ増えるものの毎年受け持ちが変わらないため、顔見知りの状態が出来ています。これも、大きな安心感をお届けしているようです。

## PERFORMANCE

## アフターサービス活動

|                             |                                       |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 顧客満足度調査<br>(郵送アンケート)        | 1回/10年程度                              |
| 定期アフターサービス<br>(担当室・サ・ビスカール) | 3か月、6か月、<br>1年、1年半、2年<br>5回/2年間       |
| 全戸お客様訪問<br>2人1組/2日間         | 春・秋の2回/年<br>(2006年～2020年末現在)<br>28回実施 |

## [ 回収率 ]



## ATTEMPT 17

## オーナーズクラブ

| Company                                                                             | SDGs                                                                                | STAKEHOLDER        |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
|  |  | 施主／従業員<br>自社（社内向け） |



## オーナーズクラブ開設

YASUNARIオーナーズクラブを2021年6月に開設しました。これは、専用ホームページと携帯メールアドレスを介しての様々なお役立ち情報を提供することや、安成の家づくりの様々な営業活動やイベントをお客様にお手伝い頂いたり、安成の家づくりを側面的に応援して頂くことを目的としています。

満足度の高い家をお渡しすることは勿論ですが、そのお家や暮らしの楽しみ方を事例を通してお知らせしたり、お客様同士が共有したり、住み心地の改善提案などをフィードバック頂くことも目的としています。それらをお客様へ付与するポイント制度とし、楽しんで頂きながらクラブ活動を行う予定です。これまで毎月「やすらぎ通信」としてお届けしていたお客様と安成工務店をつなぐ情報誌はそのまま送付を継続しますが、より密な関係性をDX化の中で模索するものとなっています。

## 加入率に関する考え方

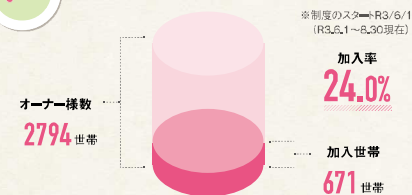
全OB施主様に加盟、参加頂きたいと考えていますが、日常的にスマートフォンでやり取りする環境にないお客様も多くいらっしゃいます。2,794名のお客様の内、50%の1,400名の加盟を目標としています。6/1開始後3か月を経過した現時点で671名の加盟を頂いています。お客様の交流促進のために年末までに1,000名を目標にして加入をお勧めしていきます。



オーナーズサイト

## PERFORMANCE

## [ オーナーズクラブ加入率 ]

お客様の声  
施主と工務店をつなぐ

安成さんは皆さんとても雰囲気の良い社員さんばかりで、モノづくりの姿勢もいつも感心していました。出来た家も快適で大満足しています。オーナーズクラブが出来たことで、これまでのやすらぎ通信に加えメンテナンスの動画や、暮らし方の工夫事例などが共有されとても役立っています。また、施主として協力できる項目も明確になり、協力し甲斐が出てきました。主人と楽しみながら施主と工務店のお付き合いをさせて頂きます。オーナーズクラブ、これからもよろしくお願いします。

## 健康経営

Company



SDGs



STAKEHOLDER

医療関係者・福祉関係者  
自社(社内向け)／従業員

産業医との打ち合わせの様子



## 健康経営体系図

安成工務店

健康経営施策の実施

健康課題を抱えた従業員へ  
「面談実施・助言」

改善相談・助言

産業医

住宅事業部

各支店 構造設計チーム  
技術サポート 企画室  
プレカットセンター

各拠点に健康づくり担当者・健康づくり責任者を設置

建築事業部

山口建築事業部  
福岡建築事業部

連携

経営企画本部

総務・経理  
経営企画室

健康経営の推進・管理

## グループ全社の取得を目指して

(株)安成工務店は、経済産業省と日本健康会議が実施する「健康経営優良法人2021(中小企業法人部門)」の認定を取得しました。

「健康経営優良法人認定制度」は、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取組をもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する制度です。安成工務店のみならず、グループ会社の取得を進めており、2021

年は、YASUNARIグループの6社(株)安成工務店、(株)デコス、(株)オーキス建設、(株)ワイズパートナー、(株)くりえいと、(株)銘建)が認定を取得しました。

安成工務店は2020年に健康宣言を発表し、従業員がより健康で生き生きと働くことができる環境を実現できるよう、健康経営を進めてきました。今後も社内外における健康課題の解決を目指して取り組んでいきます。



PERFORMANCE



## 2020年 取組み結果



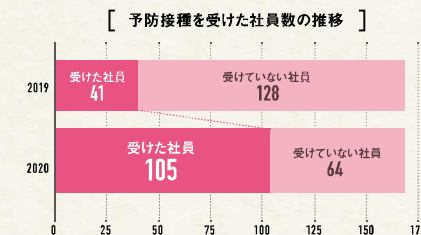
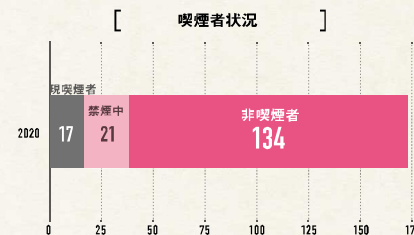
## 2020年喫煙率減少

2020年9月より業務時間内禁煙とし、禁煙外来受診希望者には禁煙サポートとして費用の一部を補助する制度を期間限定で実施しました。その結果、2020年3月から2020年12月にかけて従業員の喫煙者率は20%から9.5%に低下しました。



## インフルエンザワクチン接種状況

社員の季節性インフルエンザワクチン接種に対して費用補助を行いました。2020年10～12月の接種率は2019年の同時期と比較して24%から64%に増加しました。



## 2021年 取組み内容



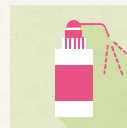
## 2021年完全禁煙

●2020年の段階的禁煙を経て、2021年1月より社員完全禁煙を実施(業務時間内のみでなく休憩時間も喫煙禁止)。



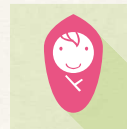
## ヘルスリテラシー向上の促進・運動機会の増進

●心身の健康に関する情報を月1回以上の頻度で配信。  
●朝礼時のラジオ体操の実施。  
●マラソン大会等スポーツイベントの参加費用補助。



## 感染症の拡大を防止する対策

●アルコール消毒液の設置や、オンライン会議  
●テレワーク等の機動的な勤務態勢の推進  
●従業員のインフルエンザ予防接種に対する費用補助



## ワークライフバランスの推進

●各従業員による有給取得計画設定  
●育児等を理由に退職した社員が、一定条件を満たした場合に再就職できるジョブ・リターン制度の導入



## 健康づくりのための職場環境の整備

●健康づくり担当者の設置。  
●職場環境や従業員の健康維持における産業医指導体制の整備  
●健康診断後の再検査・精密検査、特定保健指導等の時間の出勤認定  
●定期健康診断の受診率100%維持と、その後の精密検査等の受診勧奨・費用補助  
●会社実施の婦人科検診に係る費用の全額補助(子宮頸がんは20歳以上、乳がんは40歳以上の女性従業員を補助対象とする)  
●本社設置の自動販売機に、健康に配慮した飲料を積極的に導入



## 病気の治療と仕事の両立支援

●傷病等により長期休業となった従業員に対して生活保障の拡充を図ることができる保険への加入



## メンタルヘルス不調対策

●ストレスチェックの実施  
※2020年より継続している内容と2021年より新たに始めた取り組みをどちらも記載しています。



## アスティ・ケア

| Company                                                                           | SDGs                                                                                                                                                                                                                                                  | STAKEHOLDER         |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------|
|  |    | 地域住民<br>医療関係者・福祉関係者 |



1 アスティ・ケアが運営する住宅型有料老人ホーム。 2 食事のメニュー。 3 介護スタッフ。 4 1Fに岡村内科クリニック併設。

## 高齢者居住ノウハウを住宅設計に活かす

住まいづくりに携わるものとして、今後の超高齢化社会における高齢者居住に関するノウハウは蓄積すべき内容が沢山あります。それを得るために、10年前にYASUNARIグループでは住宅型有料老人ホームを建設し自ら介護事業を行うことで高齢化社会への対応と住宅事業へのフィードバックを行っています。

加齢に伴う身体的な変化から住環境へ対する期待は変わっていくものです。グループ内に高齢者介護施設がある事を活かし、グループの建設事業を行う上で必要な次の項目について連携を深めています。

## 住宅事業部、自然素材の健康実験

高齢者介護の現場の声を反映し、介護施設の設計に動線や材料

の耐久性などについて知見を共有しています。また安成工務店の介護施設における設計や企画商品開発などにアスティ・ケアのスタッフが現場の声を持ち寄り大きく関わっています。

## 建築事業部、設計部門

自然素材がヒトの体に及ぼす様々な好影響を、平成24年以降の九州大学との共同研究で一つずつ検証してきました。その結果、身体的な弱者ほど健康効果が大きい事が分かってきました。そこで、要介護度1～5までのアスティ・ケアが管理するセラピア下山門の入居者の了解を得て、壁4面、床、天井の6面体の内、床1面のみを従来のシート床材の上に、無垢スギ床材を敷き替えて3か月の居住テストを行いました。

測定母数が少ないので更なる検証が必要ですが、認知度改善傾向を把握することが出来ました。(P69の実験7を参照してください)

## 海外人材採用

| Company                                                                                                                                                                 | SDGs                                                                                                                                                                                                                                                        | STAKEHOLDER     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
|   |    | 従業員<br>自社(社内向け) |



1 ベトナム人社員と談笑する田中次長。 2 現場管理の様子。 3、4人のベトナム人社員(1人はオークス建設)。 4 現場管理の様子。

## 世界へ日本の建築技術を広げる

地方中小企業にとって海外人材の採用はその業種により大きく異なります。水産加工や製造業では研修生名目で労働力の確保が一般的に行われており、建設業でも足場や鉄筋などの業種では外国人研修生が増えています。

安成工務店は労働力と言う側面ではなく、親日の東南アジア諸国への技術移転の目的からベトナムより高度人材(高度専門・技術活動「高度専門職1号(ロ)」)を受け入れています。現在、安成工務店は3名、オークス建設は1名合計4名のベトナム人社員が建設現場の監督として従事しています。これから毎年1名から2名の採用を行います。YASUNARIグループの中で優秀な建設技術者として育つことを期待しています。





## 社内の人材育成



### 社内教育は重要な経営課題

社内教育は重要な経営課題です。目的は大きく2つ。ひとつめは、マインドセット(先入観・判断基準・思い込みなど)の変革。ふたつめは、安心の風土(他者への心遣いや共感など)の醸成です。

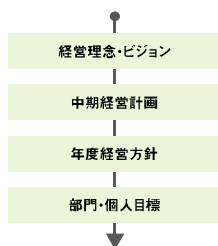
### 経営理念・経営戦略・事業計画との連動

毎年1月にグループ社員全員参加による事業計画発表会を開催。経営トップは理念や戦略を全社員へ徹底するだけでなく、社員への期待を発信します。また、経営幹部(部門長など)は自組織の年度経営方針をプレゼンテーション。

社員は全社的な方針を理解した上で、日常業務における知識・技能の習熟や自己啓発などに取り組みます。

### 職場の人材育成支援

グループ各社の若手〜中堅社員を対象としたインターバル形式の集合研修を行っています。仕事の底力を高めつつ自らの目標を達成することで、顧客満足度の向上と組織業績への貢献を大いに期待するためです。担当業務における専門性は職場でのOJTが基本。職場を離れた集合研修の場では、論理的思考やプレゼンテーションなどビジネススキルのレベルアップに主眼をおいています。中小企業の場合、研修受講の時間を捻出する人力的な余裕は多くはありません。今後効果的な学びに繋がるプログラムを組成していきます。(写真左)



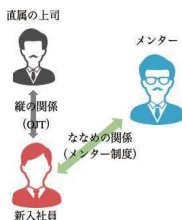
### ビジネスアイデアコンテストの開催

社員のモチベーションアップ・経営参画への意識醸成として、令和2年よりビジネスアイデアコンテストを開催しています。令和3年の第2回開催においては、応募対象者を安成工務店社員からグループ社員および安栄会(協力業者会)に拡大。新規事業開発、業務改善、社会課題解決につながる多くの応募があり、一部のアイデアにつ

いては磨き上げの上、事業化を検討しています。(写真右)

### メンター制度

新入社員と経営幹部がペアを組み、年間を通じた1対1の面談を行っています。面談では、新入社員の不安解消や職場への定着に向けたアドバイスだけでなく、人生や職業観の醸成など、仕事以外の面も含めて、より広い視野でフォローします。このため、メンターは、新入社員と年齢の近い先輩社員ではなく、経験豊富な部門長がその役割を担います。また、新入社員と経営幹部は異なる事業部のペアとしているため、丁寧なコミュニケーションによる意思疎通は、事業部間コミュニケーションの円滑化・活性化にも役立っています。



## 働き方改革/WebMTG/ペーパーレス



### 多機能端末でネットワーク化

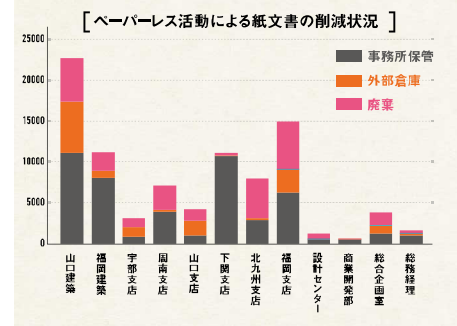
YASUNARIグループでは、2013年頃から、働き方改革を目的として、社員に貸与する携帯端末をフューチャーフォンからスマートフォンへ移行させはじめ、2017年にはほぼすべての貸与端末がスマートフォンになりました。これにより、ビデオ通話やチャットによるコミュニケーション向上、アプリによるタスク管理など、業務改善に大きな役割を果たしています。

また、2019年頃から、テレビ会議システムの導入や、各種業務改善ツールの導入を積極的に行ってまいりました。2020年には、新型コロナウイルスの影響で会議のほとんどがWEB会議に代わりました。在宅勤務(テレワーク)もグループ全体で推進し、ほとんどの打ち合わせをオンライン化することになりました。新卒学生への会社説明なども、WEBで実施しています。

そして、2020年〜2021年にかけて、業務効率化と紙の削減を目的に、ペーパーレスの取り組みを行いました。この取り組みを通じて、必要な書類、不要な書類を整理し、日々の紙・データの保存方法を見直し、これにより、約267メートル分の書類を整理・廃棄することができました。結果、事務所内をすっきりと整理することができ、データへのアクセスが容易になり、業務を効率化させています。



1 ペーパーレス化で社内保管書類の整理を行う。2/保管書類整理状況。3 サイボウズにあるクラウド活用。







就職活動で見つけた /

# 自分の 想いを 実現できる会社

安成工務店への入社理由や  
入社後の気づきを交えながら、  
未来の安成工務店をつくっていく、  
入社2〜3年目の若手社員4人の  
本音で語り合う様子を紹介します。

**Q1** 安成工務店を選んだ理由は  
何でしたか？

**D:** 私は高校に求人票が来たことがきっかけ  
でしたが、周囲の声や施主様の話を聴い  
てみて、お客様の信頼度・満足度が高い  
と感じて、入社を決めました。

**A:** 就職活動を始めるまでは安成工務店を知  
りませんでした。ゼミの先生に相談したの  
が安成工務店との出会いでした。「大きな  
建物を建てたい」という思いが安成工務  
店で実現できると知って、益々興味が高  
まっていったことが決め手になりました。

**K:** 木造の家の建築を手掛ける設計業務を  
志望していたときに、学校へ安成工務店  
の求人票が来ていたのに気づきました。  
求人票の募集は現場監督の仕事からス  
タートということで、少し悩んだものの、挑  
戦してみようと思いました。

**Y:** 学生時代は建築関係を学んでいたわけ  
ではないものの、安成工務店の家が好き  
だったことが、一番の理由です。地元で働  
きたいという軸で就職先を探している中、

「自分が好きなものに携わりたい」と思っ  
て、入社したいと思いました。

**Q2** 今の職場はどんな雰囲気で、  
どんな人が働いていますか？

**D:** 建築事業部は規模も大きく、協力会社さ  
まの数も多いことが特徴です。そのため、1  
つのチームとして建築物の工期を守りな  
からをつくりあげるとい目標の下、気さく  
でありながら、時には厳しく、楽しく業務に  
携われていると感じます。

**A:** 建築の設計業務だから、社内での仕事が  
多いのですが、先輩方はON・OFFのメリ  
ハリがしっかりしていて、仕事中は真面目  
に一生懸命取り組んで、休み時間や仕事  
が終わってからはバツと弾けていて、あ  
の雰囲気が私は好きです。

**K:** 私は大人しくて人見知りの  
面があるのですが、事務  
所内では、上司から色々  
声をかけてもらえて、話し  
やすい雰囲気づくっても  
らえていると感じていま

す。また、現場に出ても職人さんは和やか  
な方が多く、現場に出るのが楽しいです。  
今も色々助けてもらっていて、感謝の気持  
ちを持ちながら仕事をしています。

**Y:** 住宅山1店の私のいる部署は、毎年新  
入社員が入ってきている平均年齢の若い  
部署です。ただ、年齢は関係なく、活発な  
コミュニケーションがされていて、良い意見  
は取り入れてもらえるため、良い環境だと  
思っています。

**Q3** 今担当している仕事のどんな  
ところに魅力を感じていますか？

**D:** お客様へ満足していただくこと、それが  
一番だと思っています。お客様から「あり  
がとう」の声を聞くと、「施工途中では色々  
なことがあったけど、やってよかったな」と  
感じます。自分が携わった建物を見ると、  
「まちづくりに貢献したい」という志望動機  
を思い出して、心に染みるものがあります。

**A:** 平屋からマンションなど、いろんな構造の  
建物の設計を扱うことができるのは珍しい  
と思います。その分、色々な知識を得るこ  
とができるので、それが一番の強みになる  
と思っています。

社内外問わず1つのチームとして  
仕事に取り組む厳しくも楽しい職場



**K:** 現場監督=ベテランの仕事という  
イメージがありますが、若い自分が  
そういう仕事に関われることに嬉し  
さを感じます。仕事を一つ一つ積  
み重ねていく度に、知識も思いも  
どんどん増える、まさに色々なこと  
を学べることにやりがいを感じてい  
ます。

**Y:** 家づくりは人生の一大イベント、それに携  
われることはとても幸せなことだと思いま  
す。家は建てて終わりではなく、そこからが  
始まり。そういった意味では、お客様と継  
続的にコミュニケーションをとり、その方  
の暮らしに寄り添っていることに魅力を感じ  
ています。

**Q4** 仕事をする上で、一番大切に  
していることは何ですか？

**A:** 上司が描いた設計図面の検査や申請図  
面を描くことが仕事のメインですが、自分  
で設計したかのように図面の内容を把握  
して、説明できるようになりたいと思っ  
て日々努力しています。

**Y:** 色々な人のサポートがあって、私が働けて  
いると思っています。だからこそ、今までの



施主さまをはじめ、一緒に仕事をしている  
人たちにに対して、できるだけ感謝の気持ち  
を言葉にするよう心がけています。

**K:** 人に迷惑をかけたくないの、ミスをしたく  
ないという気持ちを私は強く持っていま  
す。だから、一度言われたことは忘れない  
ように、教わったこと・気づいたことは次の  
仕事で活かすことができるよう、心がけて  
います。

**D:** 人とのつながりを大切にしています。協力  
会社の皆さまがあってこそ仕事だからこ  
そ、あらゆる業務は、人々とのつながりが  
あってこそものであることを忘れないよう  
にしています。

若手社員の皆さんがどんなことを考  
えて仕事をしているか、垣間見ることがで  
きました。ありがとうございました。

お客様の「ありがとう」を大切に  
目の前の仕事に全力で  
取り組むことが成長につながる

人とのつながり、  
感謝の気持ちを忘れず、  
周りも自分も楽しい仕事に



写真左から  
(K)小谷 未来(20) / 住宅事業部【工事】  
／ 休日は家の中で勉強を見るなど、のんび  
り時間を過ごすのが好きなインドア派。  
(Y)市田 愛(25) / 住宅事業部【営業】  
／ 休日は海外旅行や県内へのドライブを楽し  
むアウトドア派。  
(A)赤宗 みゆき(25) / 建築事業部【設  
計】 / 資格取得の勉強と可立させつつ、博  
多へのドライブ・ショッピングを楽しむのがブ  
ライデーの過ごし方。  
(D)大原 佑也(22) / 建築事業部【工事】  
／ 最近は筋トレがマイブーム、トレーニング  
後の達成感にハマって、食事の摂り方まで  
変わるほど。



## 社員大工を育成中

安成工務店は大工棟梁の創  
業者が仲間2人と興した安成組  
に端を発する。「仕事の質そのも  
のが営業だ」、と考え長く営業職  
がいない会社だった。今でもモノ  
づくり(家づくり)にこだわる精神  
が宿っていると云える。

農村部で創業したため、労働  
力は農家のご主人や奥さんが多  
く、農繁期以外は土工、左官、型枠大工、鉄  
筋工、そして片付けなど多能工として定着し  
ていった。その人たちを社員として雇用して施  
工力を高め、今から35年前頃には社員は総  
勢100名を超えた。その85%が多能工社員  
であった。社員の高齢化もあり、徐々に学卒  
の技術者に入れ替わり現在の業態となった。

近年、施工技術者や大工、左官などの建  
築技能者の不足が大きな社会問題となっ  
てきた。安成工務店でも、社員大工を育成すべ  
く平成28年から雇用を開始し、社員大工の育  
成に着手した。オリジナルの教育スケジュール  
をつくり、OJTと並行して定期的な在学を行っ  
ている。具体的な技術のOJT習得は、現在組  
織化されている外注の大工30チームに1名  
ずつ配置をして行う徒弟制度に近い方式で  
ある。これまで12名入社6名退社、現在6名  
の若い社員が大工の技を磨いている。今後も  
継続雇用し、10〜20名の自社大工を育てて  
行きたい。

## 大工の年推移の在籍数

|    | H28 | H29 | H30 | R1 | R2 | R3 | 計  |
|----|-----|-----|-----|----|----|----|----|
| 男性 | 3   | 1   | 1   | 0  | 2  | 2  | 9  |
| 女性 | 0   | 2   | 1   | 0  | 0  | 0  | 3  |
| 小計 | 3   | 3   | 2   | 0  | 2  | 2  | 12 |
| 退社 | 0   | 1   | 0   | 1  | 1  | 3  | 6  |
| 在籍 | 3   | 5   | 7   | 6  | 7  | 6  | 6  |